

インタビュー

組織と人材のグローバル化に必要な英語力



最近の著書で日本のグローバル化の方向性を提示する倉本由香利氏に、グローバル人材に必要な英語力について聞いた。

『グローバル・エリート時代』*著者 くらもと ゆかり 倉本由香利氏

出版の背景にある危機感とは

もう少し多くの日本人が外に出ていかないと、日本はマクロ的には成り立たなくなるという危機感があります。また、日本企業では日本人のMBA取得者に限らず、海外から来た優秀な人材を活かしきれていません。労働人口が着実に減少する中で、優秀な外国人が気持ちよく働ける環境を整備する必要があると思っています。英語で仕事ができる会社なら世界中から優秀な人材が集まる可能性は高まります。逆に日本語がベースの企業は、人材採用の段階でハンディを背負うでしょう。販売や製造などのプロセスをグローバル化するだけでなく、「組織のグローバル化」が必要なのです。日本式で販売や製造のグローバル化に成功してきた日本企業ほど、過去の成功体験にとらわれ、「組織のグローバル化」が遅れることもあります。

英語だけで問題が解決すると言うつもりは毛頭ありませんが、英語というツールを使いこなすことは本当に大事だと思います。

社内に英語を普及させるには

社内英語公用語化で大きな反発を招くより、組織に不可欠な能力を持つ優秀な外国人を社内に入れ、周囲がその人を頼らざるを得ない状況にすれば、自然と英語はしゃべれるようになります。それはトップ主導でやらないと難しいものです。

英語で苦労した経験は

大学院を卒業して就職した会社では、猛烈な速さで成長するようにプレッシャーをかけられ、2年目には海外のプロジェクトを担当させられました。朝から晩まで英語を使う環境でしたが、初めて1

人で海外のクライアントを相手にしたときは、まともにも英語が通じず、相手が怒りだし本当に苦労したことがありました。

ビジネスで使える英語とは

語学だけの問題なら高校生レベルの英語でも大丈夫です。ただ、微妙なニュアンスや交渉のテクニックなどは、現場で多くの経験を積んで学ぶしかありません。ビジネス交渉では事前の準備が特に大事です。できる限り多くのシナリオやオプションを準備するほど交渉はうまくいきます。

英語上達のための勉強法は

英字新聞など英語の文章をひたすら読み、英語表現を覚えることが大事です。語彙力はとても大切で、知らない単語が多い状態で英文を読むのは続きません。TOEFL 頻出語彙集などの丸暗記でいいのです。しかも1日100単語など数をこなすこと。1カ月で2000語アップすれば、読める世界は大きく広がります。あとは経験を積み増すだけ。最低限の語彙力なしで、ただ英会話レッスンを続けるのは時間の無駄だと思います。

ビジネススクールでは、ビジネスの知識だけでは不十分で、フィナンシャル・タイムズなどの週末版を隅々まで熟読せよと言われました。そこには文化、芸術、音楽、グルメなど幅広い教養や雑学が詰まっています。それは、ビジネストークに入る前のSmall Talkやパーティーの話題としても役に立つ有益な情報であり、自分のポジションとともに必要性が増してきます。

(聞き手:『月刊グローバル経営』編集長 西川裕治)
*『グローバル・エリート時代』については、本誌P.35「Books」参照